第１学年　学年便り
第２０号

円満

～いつでも、どこでも、だれとでも～

豊島区立明豊中学校
令和８年１０月３０日（金）

＊明豊祭から１週間＊

明豊祭から１週間がたちました。明豊祭では、クラスの仲間と心を一つにして歌っていたと思います。この明豊祭を通して深まったクラスの団結力は、その後の日常生活にも生かせていますか。明豊祭は歌を歌って終わりではありません。この明豊祭で得た団結力や、１つの目標に向かって努力した経験を普段の学校生活にもつなげていってください。

学年便りでは、２週にわたって、皆さんの明豊祭での頑張りを振り返っていきたいと思います。今回は、２組、５組の作文を載せます。

「傾聴とマナーの大切さ」

２組

私は明豊祭を通して、学んだことがある。

１つ目は、ルールやマナーを守ることの大切さについてだ。採点の中には強弱記号を正しく守れているかという項目がある。その項目は、１人１人の声の大きさだけでなく、強弱がはっきりすれば得点になる。なので、全員で歌声に強弱をつけることを意識した。また、歌う時の服装や、他クラスの歌を聴いているときの態度も重要なことである。そのため、みんなが聞く態度を良くしようと意識することができた。

２つ目は、自分とは違う人の考え方を知り、寄り添うということである。私のクラスは、男子がとてもよく声を出してくれていた。低音が難しい中、一生懸命歌ってくれた。だが、女子のソプラノパートであまり声が聞こえず、どうすれば声を出してもらえるか悩んでいた。私は、普段から声が大きく、合唱でも声を出すことができていた。だからこそ、なぜ声が出せないのかあまりわからなかった。しかし、ソプラノパートの人たちになぜ声があまり出せないのか聞いてみると、歌詞に自信がないと言ってくれた。そこで、歌詞を覚えることを優先し、自信を持てるように工夫していった。その結果、前よりも声を出せる人が増えた。

私はこのように明豊祭を通して得られたことを大事にし、マナーを大切にしたい。また、自分とは違う性格や感情を持っている人たちの気持ちに対して、少しずつでも寄り添ってあげたいと思う。

「最後までやり切った明豊祭」

５組

私は明豊祭で、パートリーダーという大きな役割を経験しました。１番大変だったことは、途中で学級閉鎖になってしまったことです。練習に全員が集まれることが少ない中、学級閉鎖も重なり、さらに練習が少なくなってしまいました。

でも、本番のステージに立った時、みんなの顔は真剣でした。歌い始めた瞬間、それまであった不安や焦りが一気になくなった感じでした。結果として賞は取れなかったけど、あの少ない練習時間の中で、みんなと協力できて楽しかったです。

大変な状況を乗り越えてクラスで最優秀賞を目指した経験は、私にとって本当に大切なものになりました。この経験を通して、私は予想外なことが起きても、最後までやり切る大切さを学ぶことができました。